

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370104980		
法人名	有限会社 かりゆし		
事業所名	グループホーム 高松(Aユニット)		
所在地	岡山市北区高松原古才720-3		
自己評価作成日	令和 4 年 2 月 13 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370104980-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 2 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○健康管理 ○リハビリ ○レクリエーション ○事故防止

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

就任3年の施設長は、3人の管理者のポテンシャルを活かそうと取り組んだ一年で、管理者達も施設長と息を合わせてくれていると感じられる。それは、職員が提案した『褒め活』の実践から顕著に窺え、集約される。だからこそ、今日までホームで根付いた習慣もより良く活かされていて、職員は、どの出勤時間にも、利用者皆に、まるで家に帰って来たかの如く、あたたかい挨拶を投げかける事が出来る。そんなホームの暮らしぶりが、理念にある利用者との生きがいを探求し、創造する事そのものとなっている。工夫点は、PDCAサイクルが実践され、効果を得たというエピソードトークより！近年施設長は、自分を変え様と模索しており、自分で考え・気付き・行動し・省みて・軌道修正する仕組みを、職員と共に創って来て、職員は実践出来る様になった事で、前回以上に風通しの良い職場となっているものと評価した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	有限会社アウルメディカルサービス			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念である「いきがいの探求・いきがいの創造」を念頭にカンファレンスやユニット会議で話し合い、自立支援やアットホームな雰囲気の中で楽しんで頂けるように意識し、職員同士で高めあっている。又、毎日申送り時に基本理念を声に出し読み上げ、職員に周知している。	法人とホームの理念を事務所に掲示して、毎日の朝礼で唱和を続けている。更に各ユニットでの目標を掲げて、職員自身が目標を決めることで、同じベクトルを向ける様に取り組んでいる。新入職者には3ヶ月間は研修とOJTを用意している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、行事の一つである「夏祭り」では、地域の方々との会話や協力し合うことにより交流を図っていたが、昨年も、コロナ禍により、実践出来ていない。	町内会に入っていて、町内の溝やお寺の掃除に参加し、終了後にお参りの時間を活かして情報交換をしている。グループの事業所が近隣にあるので、利用者同士、近くを通れば挨拶を交わしたり、遊びに来たりして、昔話に花を咲かせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族からの相談を主に助言を行っている。敬老会などは、複数のご家族と職員が集まって話が出来ると良い機会であったが、コロナ禍の為、実践出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表者や入居ご家族の方に参加してもらい、客観的な視点でのご助言を頂いている。	書類会議ではあるが、交流を絶やさない様に書類は必ず持参することで、老人会の会長・愛育委員・地域包括支援センターとは、顔の見える付き合いが続けられている。顔なじみの関係なので身近な情報を得やすく、利用者や家族と情報を共有も出来ている。	今以上に、地域に知って頂ける様に、デジタルも取り入れて、地道に手渡しを続けている案内に動画を加えて、リアル開催に繋げては如何でしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請関係のものや介護報酬の解釈や制度の改定時には連絡し問い合わせをしている。	窓口は施設長。市町村との繋がりを大切にしようとして、提出書類は出来るだけ窓口へ持っていく様にしている。何か分からない事があればその都度、気軽に担当者にお問い合わせられる関係が出来ているので、昨年の実地指導もスムーズに行えた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置している。身体拘束についての勉強会を開催し代表者をはじめ、全職員が正しく理解し、身体拘束の無いケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていない。施設長は、職員がボロっと出る言葉もスピーチロックにならない様、気付いた時に注意し、介助者を変えて、職員も利用者も穏やかとなる様に配慮している。研修は年2回で、担当者が事例形式を主として、気付きを得ながら実践に活かしている。	研修にロールプレイも取り入れては如何でしょうか？
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置している。勉強会やミーティングを通して知識の習得・共有している。介護していく中で職員がお互いに注意を促すようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見制度」の勉強会を行っている。ご家族からの相談は無いが資料を用意し、常時相談に応じられるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退居時、料金の改定時の際に書面にて入居者やご家族に説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為、面会の機会が減っている。ご家族様には、定期的に生活の様子をお知らせしている。その際に要望やご意見をお聞きし、要望などが有った場合には、会議等で検討し、ケアに取り入れサービスの向上に役立てている。	ユニットリーダーが家族と直接、電話や面会で話をする事で家族の意見を集めやすくしている。「コロナ対策で力を入れて頂き有難う」と言っていたが事が多く、家族との信頼関係が深まっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議や個別面談などで職員の意見を聞くようにしている。職員から出た意見はすぐに検討し日常業務に生かせるようにしている。	年1回、施設長と管理者、管理者と職員との定期面談の他に、気付いた時に面談する時間を設けている。去年、管理者が『褒め活』をしようとの提案を実践。注意や指導も褒めて行う様に取り組み始めた事で、ホーム内の風通しも今以上に良くなり、施設長も褒められると嬉しそう。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの希望や能力向上が見られれば役職を与えたり、配置転換を行っている。また管理者が評価する機会を設け、勤務態度等に応じて給与または賞与に反映、支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、外部研修への参加が実施出来ない。ホーム内での勉強会は、毎月、担当者が資料を作成し、全員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、グループ内での行事が、中止になっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してしばらくは様子観察を密に行い、表情や行動の変化をいち早く察知し素早く対応できるようにしている。また、訴えや要望がある時は出来るだけ傾聴するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族の方よりお聞きするようにしている。面会時や変わったことがあった際に報告や連絡を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の前後にカンファレンスを行い、入居者本人やご家族の要望を取り入れたサービス内容としている。また、日頃から様子観察やコミュニケーションをしっかりとることにより必要と思われる支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と一緒に洗濯物畳みや食器拭きを行うことにより、一方的な介護にならない様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にグループホーム新聞を発行し、日常の様子を写真で知らせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出等出来ない為、ご家族様にホームで撮影した写真をお渡ししている。	地域にはグループ事業所の利用者が多く、散歩に出かけると遠くからでも挨拶を交わす。馴染みの人との手紙やハガキのやり取りも続いている。通院の時を活かして、ドライブ気分で馴染みの場所へのお出かけを楽しむ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物たたみや、食器拭きを一緒にしていただき、入居者同士が関われる環境を見つけ、共同生活が送れるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後にご家族からの要望があれば相談に乗らせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の生活の様子観察を行い、会話や行動を把握し、3ヶ月に1回のサービス計画書に反映させている。また、状態を変化の把握する為に同時にケアチェックも行っている。	普段の様子や会話から利用者への観察を怠らない。傾聴を重ねていく事で、その人の立場となつて、どうして欲しいのかと想いを馳せる。どの出勤時間の職員も、利用者全員に挨拶をして回ることで、思いや意向の把握をしやすくしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後にご本人やご家族からお話を聞かしている。日常生活の中での会話などからヒントを得てケアに生かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し、記録に残している。又、月1回のカンファレンスにて残存機能の有無や心身の状態に関して話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時などに事前にご家族の意向や要望をお聞きし、月1回のカンファレンスにて計画を立てている。介護計画作成後にご家族に説明と確認を行い修正の有無をお聞いている。	入居時に立てたプランを2週間後、以後は3ヶ月毎に見直している。常勤の看護師が主に窓口になって、往診医との意見を取りまとめて、本人・家族の意向に添える様、計画作成担当者がプランにまとめる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録の中に気付いた点や実践した事、その結果を記載している。職員間では日々の申し送りや申し送りノート、介護ノート等で情報の共有を行い介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員側から要望を聞いたり、入居者側から要望があれば可能な限り沿えるようにしている。行事等でその他の事を対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域資源との協働は実施出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やご本人のかかりつけ医の確認をとっている。眼科や歯科においても地域内で受診ができるようにしている。	提携医は選べるが、入居時に提携医に転医される利用者が多く、隔週で往診があり、24時間体制で対応している。訪問歯科は希望者を募る。他科は原則、家族が通院を介助するが、職員が殆どフォローできる体制が整っている。訪問鍼灸師等の利用も可。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回、ユニット会議内にて看護師による勉強会や日頃から相談して看護師と連携をとっている。また、昼夜問わず入居者に異常が見られたら看護師に報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は面会を行い、本人の状態の把握を行っている。また入退院時に医師や看護師等と情報交換を行い、円滑に進められるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療面の方向性や看取りについての説明を行っている。ご家族と話し合いその結果を医師に報告し、方針を決めている。	職員は皆、「ご入居者はお看取りするものだ。」というモチベーションがあると、開口一番の施設長。入居時の重要事項説明で、どこまで出来るかを説明する。看取り後は、カンファレンスを通じて、次に活かしている。年1回の研修では、各ユニットでマニュアルを作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置をし、緊急時の対応についてもマニュアルを作成している。又、看護師による勉強会を実施し、冷静に対応出来るよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に行われる火災や風水害の避難訓練にて、避難方法や避難経路の確認を行っている。特に夜間帯は職員の数も少ないので重点的に行っている。	年2回火災と台風、水害訓練を昼夜想定で利用者で行った。玄関に避難経路の掲示をし、緊急連絡網は携帯電話を活用。消防署とは、消防計画のやり取りの際に連絡を取っている。備蓄は、隣接する母体法人が3日分程度管理している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の羞恥心や自尊心に関する勉強会を開催している。勉強会を通して職員同士で声を掛け合えるようにし、羞恥心などに配慮した介護が行えるよう心掛けている。	呼称は苗字に「さん」付けをし、家族の要望で呼んでほしい呼称がある場合は、臨機応変に対応する。入室時にはノックし、肌を露わにする時には、タオルをかけたり、素早く更衣をするように取り組む。入れ歯を嵌める時には、洗面所に誘導し、個別に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で思いや要望を聞くようにしている。要望に添えない時は選択肢を用意し選んでもらったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本は共同生活とし、その中でも一人になれる時間と場所(居室等)を設け本人の趣味や嗜好に合ったものを提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持参した服やご家族が用意してくださった服が基本となっており起床時や入浴時などに選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事で食材を目前で調理し、視覚や嗅覚でも楽しんで頂けるようにしている。また、食器拭きを手伝って頂いている。	朝は施設内で作り、昼と夜はケイタリングを継続。法人内の管理栄養士が、試食しに遊びに来て、皆とおしゃべりして帰る。利用者の誕生日や行事食があり、共に作る喜びを感じて頂ける様に、お好み焼きや焼きそばを一緒に作ったりして、美味しく食べられる喜びを共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎日記録に残し、食事や水分摂取量の低下や体調等を考慮し、提供している。又、水分制限の方や糖尿病の方にも、過度な摂取にならないよう、量の管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや洗面所まで誘導し口腔ケアを行っている。基本はご本人に行ってもらい状況により一部介助などを行っている。義歯は夜に預かって消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、その方に合った声掛けや誘導を行っている。	排泄チェック表を活かして、こまめに言葉を掛け、日中は出来るだけトイレ誘導をしている。家族へのコスト意識をして、衛生材料は快適且つ効果的に使っている。失敗されても静かに言葉をかけて見えない場所まで誘導する。ポータブルトイレは、夜間のみどうしても必要な方のみ使用する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の回数を増やしたりして対応している。必要な入居者には看護師に相談し指示に応じて内服薬を使用する事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっているが入居者の要望によっては順番や日にちを変えたりしている。	入浴は週2回。頻度を増やす事も可。リフト浴は職員にも好評なので、利用者共に安全安楽を得ている。入居してしばらくは、馴染みにくく嫌がる方もおられるが、『共同生活介護』の場として、共に暮らして行く事で、徐々に気持ちがほだされ、自然に入浴出来る様になるとの事。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせている。状態や要望によりベッド臥床にてゆっくりできるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師により内服の追加や変更が申し送られ、その都度説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業やレクリエーションなどで気分転換をしてもらっている。負担がかからないように、無理がない程度にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は現在実施出来ていないが、ホーム内で、四季を感じられ、楽しんで頂ける様行事を企画し、実施している。	田園の中の立地を活かして、気軽に散歩が出来るので、利用者は地域の方との交流やふれあいがある。広い敷地には特養・老健・デイサービス等の関連施設があるので、一歩外へ出れば、他の事業所の利用者や職員や出入り業者と、触れ合う事も日常となっている。近所に名所もあるので、通院時のドライブに立ち寄ったりもする。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失を防ぐため、基本はお預かりしている。ご本人やご家族の要望があれば使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の要望があれば基本事務所の電話を使用してもらっている。ご家族が用意された携帯電話の使用も可能である。ご家族から電話があった場合はおつなぎできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は毎日掃除をし清潔を保っている。室温なども入居者に聞くなどして調整している。少しでも季節感を感じて頂けるように、応じた壁面を作成したり小物で飾り付けたりしている。	評価が始まって直ぐにリビングではランチカフェタイムがあり、利用者は好みのドリンクをオーダーしていて、にこやかに会釈をして下さった。壁面には、四季折々の制作物が掲示されている中、七段飾りの模造紙が掲示されており、職員に尋ねると、ひな祭りを前に、皆で作ったお雛様を飾ろうとしているとの事だった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファを用意したり、窓際に椅子を用意したりして一人や気の合う者同士で過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご家族に相談・協力を仰ぎ、使い慣れた物や思い出の品を持ってきてもらうようにしている。またご家族との写真やお手紙も飾るようにしている。	位牌と遺影がキッチンと置かれてあり、祈りを捧げられる穏やかな暮らしが流れている様だった。筆筒の上には、届けられたハガキが置かれてあり、一人の時間に、しみじみ見返しておられるとの事。嫌な臭いもなく、利用者の個性が活かされた、居心地の良さを感じる居室だった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の家具の配置は残存機能や安全面を考慮している。ホールなど共同の空間は他者とコミュニケーションが取りやすく安全に生活が送れるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370104980		
法人名	有限会社 かりゆし		
事業所名	グループホーム 高松(Bユニット)		
所在地	岡山市北区高松原古才720-3		
自己評価作成日	令和 4 年 2 月 13 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370104980-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 2 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○健康管理 ○リハビリ ○レクリエーション ○事故防止

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

就任3年の施設長は、3人の管理者のポテンシャルを活かそうと取り組んだ一年で、管理者達も施設長と息を合わせてくれていると感じられる。それは、職員が提案した『褒め活』の実践から顕著に窺え、集約される。だからこそ、今日までホームで根付いた習慣もより良く活かされていて、職員は、どの出勤時間にも、利用者皆に、まるで家に帰って来たかの如く、あたたかい挨拶を投げかける事が出来る。そんなホームの暮らしぶりが、理念にある利用者との生きがいを探求し、創造する事そのものとなっている。工夫点は、PDCAサイクルが実践され、効果を得たというエピソードトークより！近年施設長は、自分を変え様と模索しており、自分で考え・気付き・行動し・省みて・軌道修正する仕組みを、職員と共に創って来て、職員は実践出来る様になった事で、前回以上に風通しの良い職場となっているものと評価した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	有限会社アウルメディカルサービス			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生きがいの探求」「生きがいの創造」というグループ理念をもとに入居者の方々が自分らしく過ごしていたできるように職員間での話し合い、情報共有をし、一人一人の関わっている。グループホーム高松の理念の掲げている「地域との交流を持ち」では現在コロナウイルスの予防もあり実践できていない。	法人とホームの理念を事務所に掲示して、毎日の朝礼で唱和を続けている。更に各ユニットでの目標を掲げて、職員自身が目標を決めることで、同じベクトルを向ける様に取り組んでいる。新入職者には3ヶ月間は研修とOJTを用意している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年夏まつりや、地域行事の参加、敬老会などで交流を図っていたが、今年度はコロナウイルスの影響によりすべての行事がなくなり交流することが出来ていない。	町内会に入っていて、町内の溝やお寺の掃除に参加し、終了後にお参りの時間を活かして情報交換をしている。グループの事業所が近隣にあるので、利用者同士、近くを通れば挨拶を交わしたり、遊びに来たりして、昔話に花を咲かせている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症家族会や、入居希望者のご家族への関わりの中で、経験や知識を交えアドバイスをを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行っているが今年度はコロナウイルスの影響により開催することができていない。資料配布のみ行っている。	書類会議ではあるが、交流を絶やさない様に書類は必ず持参することで、老人会の会長・愛育委員・地域包括支援センターとは、顔の見える付き合いが続けられている。顔なじみの関係なので身近な情報を得やすく、利用者や家族と情報を共有も出来ている。	今以上に、地域に知って頂ける様に、デジタルも取り入れて、地道に手渡しを続けている案内に動画を加えて、リアル開催に繋げては如何でしょうか？	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請関係や制度の改正時などは連絡し、問い合わせをしている。	窓口は施設長。市町村との繋がりを大切にしようとして、提出書類は出来るだけ窓口へ持っていく様にしている。何か分からない事があればその都度、気軽に担当者にお問い合わせられる関係が出来ているので、昨年の実地指導もスムーズに行えた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内では身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束廃止に向けて取り組んで入る。玄関の施錠は夜間のみとし解放的な施設を意識している。身体拘束についての資料を作成・配布し、意識を高め合っている。	身体拘束はしていない。施設長は、職員がボロっと出る言葉もスピーチロックにならない様、気付いた時に注意し、介助者を変えて、職員も利用者も穏やかとなる様に配慮している。研修は年2回で、担当者が事例形式を主として、気付きを得ながら実践に活かしている。	研修にロールプレイも取り入れては如何でしょうか？	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で観察している。また、虐待防止についての資料を作成・配布し、職員間で意識を高め合っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見制度」の勉強を行っている。ご家族の方からの相談は無いが、資料を用意しており常時相談に応じれるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退居時、料金改定等の際に書面にて入居者又は家族に対し説明を行い、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置し面会時などで意見を頂けるようにしていたが、今年度はコロナウイルスに影響により面会が難しくなっている為、施設からの電話連絡を行った際に意見があれば伺い、反映できるようにしている。入居者の方へは日常生活で困ったこととしてほしいことを聞き出し支援できるようにしている。	ユニットリーダーが家族と直接、電話や面会で話をする事で家族の意見を集めやすくしている。「コロナ対策で力を入れて頂き有難う」と言っていたが、家族との信頼関係が深まっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回会議を開き、意見や提案を聞き、反映できるようにしている。また勤務時間内での意見交換や、定期的に面談を行い、意見が聞ける体制にしている。	年1回、施設長と管理者、管理者と職員との定期面談の他に、気付いた時に面談する時間を設けている。去年、管理者が『褒め活』をしようとの提案を実践。注意や指導も褒めて行う様に取り組み始めた事で、ホーム内の風通しも今以上に良くなり、施設長も褒められると嬉しそう。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事に対しての思いや、やりがい、目標等のアンケートを実施し、意欲向上に向け取り組んでいる。管理者が評価する機会を設け、能力に応じた給与又は賞与を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、密を避けるため集まつの勉強会を実施できていないが、毎月、様々な内容の資料を作成、配布し勉強を行っている。職員個々の力量を把握し、指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防のため交流できる場がなくなっているが、各事業所の代表者が介護部会に参加し、その場で、ネットワークづくりを行い、様々な話し合いを行い、各事業所でサービスの質を向上させる為に役立てている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	緊張がほぐれるようにゆっくり話をしていき、様子観察をしながら関係性を築き、不安や要望に耳を傾け安心して生活をしていただけるように配慮をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設説明を丁寧に行い、話をしていく中で、家族の不安や要望を聞き、安心していただけるように配慮をしている。変化があれば面会時や電話連絡で報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族のニーズを聞き取り、それに沿った援助ができるようプランニングしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、洗濯たたみ、作業等を入居者に合わせ、職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響により、ご家族の方との交流が少なくなっているが、定期的に電話連絡を行い様子を伝え、コミュニケーションを図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防のため交流する事が出来ない。	地域にはグループ事業所の利用者が多く、散歩に出かけると遠くからでも挨拶を交わす。馴染みの人との手紙やハガキのやり取りも続いている。通院の時を活かして、ドライブ気分で馴染みの場所へのお出かけを楽しむ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は集団レクリエーションを行い、交流を図っている。 また、居室で過ごせれている方には声掛けを行い参加を促している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族の要望があれば相談に応じている。また、グループ内での職員間の情報交換も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月に1度ケアプランの見直しを行い、本人の意向に沿った支援ができるようにしている。また3ヶ月以内でも状況が変わればその都度検討、見直しを行っている。	普段の様子や会話から利用者への観察を怠らない。傾聴を重ねていく事で、その人の立場となつて、どうして欲しいのかと想いを馳せる。どの出勤時間の職員も、利用者全員に挨拶をして回ること、思いや意向の把握をしやすくしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にお聞きし、居室内環境等継続した生活を支援できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共同生活を基本にしているが、その中で本人の意向や状態に合わせて個別を重視している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段から状況の変化や様子、その時々課題を見つけ早々に対応できるように、話し合いの場を設けるようにしている。ご家族の方にもケアプラン更新時には要望の聞き取りを行っている。	入居時に立てたプランを2週間後、以後は3ヶ月毎に見直している。常勤の看護師が主に窓口になって、往診医との意見を取りまとめて、本人・家族の意向に添える様、計画作成担当者がプランにまとめる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来事があったことに対し、情報の伝達漏れや記入漏れがないように気をつけケアプランの見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット間での情報交換やグループ内での情報交換等で新たな取り組みを検討し実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じ地域でお弁当を購入したり、また散髪屋さんに来てもらっている。グループ内での地域資源の情報交換も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族よりかかりつけ医を確認している。また、歯科や眼科については地域内で受診できるようにしている。	提携医は選べるが、入居時に提携医に転医される利用者が多く、隔週で往診があり、24時間体制で対応している。訪問歯科は希望者を募る。他科は原則、家族が通院を介助するが、職員が殆どフォローできる体制が整っている。訪問鍼灸師等の利用も可。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体面や精神面の小さな変化も随時連絡し指示をもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日常生活の様子を常に把握し、漏れのない様に情報伝達をし面会時においても情報の提供をいただけるように努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の状態の変化に伴い、早めに本人や家族と話し合いの場を持ち、今後の方向性を納得できる範囲で話し合っている。	職員は皆、「ご入居者はお看取りするものだ。」というモチベーションがあると、開口一番の施設長。入居時の重要事項説明で、どこまで出来るかを説明する。看取り後は、カンファレンスを通じて、次に活かしている。年1回の研修では、各ユニットでマニュアルを作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段より緊急対応マニュアルに目を通し、勉強会にもデモンストレーションをし身に着けるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、避難経路の確認、それについてのマニュアルの確認を行っている。	年2回火災と台風、水害訓練を昼夜想定で利用者で行った。玄関に避難経路の掲示をし、緊急連絡網は携帯電話を活用。消防署とは、消防計画のやり取りの際に連絡を取っている。備蓄は、隣接する母体法人が3日分程度管理している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を敬い尊重しながら、その方に合った声掛けを行っている。特に排泄誘導介助時、入浴時はプライバシーを損なわないよう配慮をしている。そして「人権・プライバシー保護」の勉強会を行い周知している。	呼称は苗字に「さん」付けをし、家族の要望で呼んでほしい呼称がある場合は、臨機応変に対応する。入室時にはノックし、肌を露わにする時には、タオルをかけたり、素早く更衣をするように取り組む。入れ歯を嵌める時には、洗面所に誘導し、個別に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のそれぞれの場面において利用者の思い等を聞くようにしており、思いに添えない時は選択肢を設け選んでもらうこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活を基本としているが、本人の希望や趣味、嗜好合ったものを体調や状況を見ながら促していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持参されたものや家族が持ってきてくださった服などを着ている。その中で起床時、入浴時等本人に選んでもらえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の時は要望を聞きながらお弁当を注文し、いつもと違う雰囲気の中で食事を楽しんで頂いている。食後は個々に合わせて食器拭きを手伝っていただいている。。	朝は施設内で作り、昼と夜はケイタリングを継続。法人内の管理栄養士が、試食しに遊びに来て、皆とおしゃべりして帰る。利用者の誕生日や行事食があり、共に作る喜びを感じて頂ける様に、お好み焼きや焼きそばを一緒に作ったりして、美味しく食べられる喜びを共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携し、利用者の状態に合わせ食事形態等を変更している。食事摂取量も記録し把握している。水分はお茶以外にもコーヒー、紅茶等提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけ自力で歯磨き・うがい義歯を外す等ができるように促している。出来ない部分も本人が嫌がらない程度に行いケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の身体能力、理解力等も配慮した上で支援し、本人の訴えや排泄間隔を見て声掛けし誘導・交換を行っている。	排泄チェック表を活かして、こまめに言葉を掛け、日中は出来るだけトイレ誘導をしている。家族へのコスト意識をして、衛生材料は快適且つ効果的に使っている。失敗されても静かに言葉をかけて見えない場所まで誘導する。ポータブルトイレは、夜間のみどうしても必要な方へのみ使用する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給と下剤の導入で個々に応じた排便管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、利用者の状態、希望に合わせて入浴日の変更や順番を決めている。	入浴は週2回。頻度を増やす事も可。リフト浴は職員にも好評なので、利用者共に安全安楽を得ている。入居してしばらくは、馴染みにくく嫌がる方もおられるが、『共同生活介護』の場として、共に暮らして行く事で、徐々に気持ちがほだされ、自然に入浴出来る様になるとの事。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムに添って支援している。その日の本人の体調や様子に配慮しながら休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「薬」についての勉強会を開催したり、その都度細かい説明を受け、色分けし、確認を十分に行うことで誤薬防止にも注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者のやりたいことや、好きなこと等を聞き出し、個々にあった作業やレクリエーションを通して、充実した生活が送れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナウイルスの影響により外出をすることが出来ていない。敷地内での散歩や日光浴は状況に合わせて行えるようにしている。	田園の中の立地を活かして、気軽に散歩が出来るので、利用者は地域の方との交流やふれあいがある。広い敷地には特養・老健・デイサービス等の関連施設があるので、一歩外へ出れば、他の事業所の利用者や職員や出入り業者と、触れ合う事も日常となっている。近所に名所もあるので、通院時のドライブに立ち寄ったりもする。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により手元に持たれている方はおられる。職員間で情報共有している。現在コロナウイルスの影響により外出ができないので、何かを買いたいとの声が聞かれた時は職員がお金を預かり代わりに買いに行くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば施設から電話ができるようにしている。また家族より電話があれば直接話してもらっている。携帯電話を持たれている方へは自由に電話が出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は毎日掃除をし清潔を保っている。室温や湿度にも気を配っている。毎月季節感を感じて頂けるように壁面や写真などを飾り付け心地よい空間を作っている。	評価が始まって直ぐにリビングではランチカフェタイムがあり、利用者は好みのドリンクをオーダーしていて、にこやかに会釈をして下さった。壁面には、四季折々の制作物が掲示されている中、七段飾りの模造紙が掲示されており、職員に尋ねると、ひな祭りを前に、皆で作ったお雛様を飾ろうとしているとの事だった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の様子や希望に沿って居室で一人で過ごして頂いたり、ホールでゆっくり過ごして頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の持ち物(タンス、テレビ、小物)を持ち込んでもらい馴染みの空間を出来るだけ作れるように援助している。	位牌と遺影がキッチンと置かれてあり、祈りを捧げられる穏やかな暮らしが流れている様だった。筆筒の上には、届けられたハガキが置かれてあり、一人の時間に、しみじみ見返しておられるとの事。嫌な臭いもなく、利用者の個性が活かされた、居心地の良さを感じる居室だった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分かりにくい方へは目印等を掲げたり、また共用部分(トイレ)には扉に張り紙をして分かりやすくしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370104980		
法人名	有限会社 かりゆし		
事業所名	グループホーム 高松(Cユニット)		
所在地	岡山市北区高松原古才720-3		
自己評価作成日	令和 4 年 2 月 13 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370104980-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 2 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○健康管理 ○リハビリ ○レクリエーション ○事故防止

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

就任3年の施設長は、3人の管理者のポテンシャルを活かそうと取り組んだ一年で、管理者達も施設長と息を合わせてくれていると感じられる。それは、職員が提案した『褒め活』の実践から顕著に窺え、集約される。だからこそ、今日までホームで根付いた習慣もより良く活かされていて、職員は、どの出勤時間にも、利用者皆に、まるで家に帰って来たかの如く、あたたかい挨拶を投げかける事が出来る。そんなホームの暮らしぶりが、理念にある利用者との生きがいを探求し、創造する事そのものとなっている。工夫点は、PDCAサイクルが実践され、効果を得たというエピソードトークより！近年施設長は、自分を変え様と模索しており、自分で考え・気付き・行動し・省みて・軌道修正する仕組みを、職員と共に創って来て、職員は実践出来る様になった事で、前回以上に風通しの良い職場となっているものと評価した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	有限会社アウルメディカルサービス			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りの時間に職員が理念を読む事を徹底している。また、夏祭りや清掃活動等を通して地域との交流を持つようにしているが今年度もコロナウイルスにより交流を行えていない。	法人とホームの理念を事務所に掲示して、毎日の朝礼で唱和を続けている。更に各ユニットでの目標を掲げて、職員自身が目標を決めることで、同じベクトルを向ける様に取り組んでいる。新入職員には3ヶ月間は研修とOJTを用意している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流を目的とした年1回の青空散歩や夏祭りの実施、定期的な地域の清掃活動への参加・認知症家族会への参加、敬老会への参加など地域行事への参加を行っているが今年度はコロナウイルスにより開催できていない。	町内会に入っていて、町内の溝やお寺の掃除に参加し、終了後にお参りの時間を活かして情報交換をしている。グループの事業所が近隣にあるので、利用者同士、近くを通れば挨拶を交わしたり、遊びに来たりして、昔話に花を咲かせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症家族会への参加や入居相談での対応にて地域の方々に知識や経験に基づいたアドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行っていたが、コロナ禍により会の開催は行えていない。資料配布のみ行っている。	書類会議ではあるが、交流を絶やさない様に書類は必ず持参することで、老人会の会長・愛育委員・地域包括支援センターとは、顔の見える付き合いが続けられている。顔なじみの関係なので身近な情報を得やすく、利用者や家族と情報を共有も出来ている。	今以上に、地域に知って頂ける様に、デジタルも取り入れて、地道に手渡しを続けている案内に動画を加えて、リアル開催に繋げては如何でしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請関係のものや介護報酬の解釈についての連絡や問い合わせはしている。	窓口は施設長。市町村との繋がりを大切にしようとして、提出書類は出来るだけ窓口へ持っていく様にしている。何か分からない事があればその都度、気軽に担当者に問い合わせられる関係が出来ているので、昨年の実地指導もスムーズに行えた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員の設置をしており定期的に身体拘束について話し合いをするとともに、勉強会等で身体拘束について職員間で周知し身体拘束をしないケアについて話あっている。	身体拘束はしていない。施設長は、職員がボロっと出る言葉もスピーチロックにならない様、気付いた時に注意し、介助者を変えて、職員も利用者も穏やかとなる様に配慮している。研修は年2回で、担当が事例形式を主として、気付きを得ながら実践に活かしている。	研修にロールプレイも取り入れては如何でしょうか？
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で虐待の防止の理解を深め日常での言葉使いにおいて気がついた点は職員同士でアドバイスし合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回『成年後見制度』の勉強会を開催している。ご家族の相談は今の所無いが、資料を事務所に用意しいつでも相談に乗れるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退去時・料金の改定時に書面にて入居者や御家族に説明し、同意を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来所時や電話にて日常生活の様子などをお伝えしている。その際要望や意見などをお聞きし、会議にて話し合っている。今後のケアの方向性やサービス向上に役立てている。	ユニットリーダーが家族と直接、電話や面会で話をする事で家族の意見を集めやすくしている。「コロナ対策で力を入れて頂き有難う」と言っていたことが多く、家族との信頼関係が深まっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時のカンファレンスや月に1度あるユニット会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	年1回、施設長と管理者、管理者と職員との定期面談の他に、気付いた時に面談する時間を設けている。去年、管理者が『褒め活』をしようとの提案を实践。注意や指導も褒めて行う様に取り組み始めた事で、ホーム内の風通しも今以上に良くなり、施設長も褒められると嬉しそう。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員本人から能力向上のための希望等あれば役職をつけたり、配置転換などを行うようにしている。アンケートを取り職員個々の目標の設定や評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により外部の研修への参加は行えていないが、月1回の施設内勉強会を行い、知識向上また、個々で要望等あれば、その都度対応するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により開催できていないことが多い。グループ内の行事(夏祭り・忘年会・旅行)やグループ内研修などの参加を積極的に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報収集をもとに積極的にコミュニケーションを図ったり、関わりを持つことで安心した生活を送れるような関係構築を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ゆっくりと時間をかけ、家族が話しやすい環境を提供し、可能な範囲でのサービスを行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞きなるべくそれに沿った支援を行えるようにしている。また、本人の混乱を招かないような落ち着ける環境を作れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、洗濯たたみ、作業等を入居者に合わせ、職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会や夏祭り・誕生日会に参加して一緒に楽しんでもいただけるよう呼びかけたり、また面会にも来ていただけるよう声掛けをしているが今年度はコロナウイルスにより面会や行事は行えていない。電話や施設で発行している新聞を送ったりし施設での様子を伝えられるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族協力のもと外出等行っていたがコロナウイルスにより現在行えていない。	地域にはグループ事業所の利用者が多く、散歩に出かけると遠くからでも挨拶を交わす。馴染みの人との手紙やハガキのやり取りも続いている。通院の時を活かして、ドライブ気分で馴染みの場所へのお出かけを楽しむ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事を通じて入居者同士が関われるサービスを提供している。入居者同士の関係作りが難しい時には職員が間に入り関係作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族の要望があれば他のサービスの利用などの相談に応じている。またグループ内での情報交換も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いを聞くようにし、また高齢の方へは身体的にも無理をさせない配慮も行っている。	普段の様子や会話から利用者への観察を怠らない。傾聴を重ねていく事で、その人の立場となつて、どうして欲しいのかと想いを馳せる。どの出勤時間の職員も、利用者全員に挨拶をして回ることで、思いや意向の把握をしやすくしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や関係者の方々より細かい情報をいただけるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の細かな観察により状態を把握し職員間での情報共有にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段から状況の変化や様子、その時々課題を見つけ早々に対応できるように話し合いの場を設けるようにしている。また、ケアプラン更新時には家族に要望の聞き取りをしている。	入居時に立てたプランを2週間後、以後は3ヶ月毎に見直している。常勤の看護師が主に窓口になって、往診医との意見を取りまとめて、本人・家族の意向に添える様、計画作成担当者がプランにまとめる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については記入漏れのないように記録している。また、気づきなどは申し送りや介護ノートを使用し職員間での情報共有を行いながら計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット間での情報交換や、またグループ内での職員交流等で新たな取り組み等を検討し実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じ地域で弁当をとったり、また散髪屋さんに来てもらっている。グループ内での地域資源の情報交換も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族よりかかりつけ医を確認している。また、歯科や眼科についても地域内で受診できるようにしている。	提携医は選べるが、入居時に提携医に転医される利用者が多く、隔週で往診があり、24時間体制で対応している。訪問歯科は希望者を募る。他科は原則、家族が通院を介助するが、職員が殆どフォローできる体制が整っている。訪問鍼灸師等の利用も可。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各利用者における身体面、精神面の変化を小さいことでも随時連絡し指示をもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日常生活の様子を常に把握し漏れのないように情報伝達をし面会時においても情報の提供をいただけるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の状態の変化に伴い早めに本人や家族と話し合いの場を持ち、今後の方向性を納得できる範囲で話あっている。	職員は皆、「ご入居者はお看取りするものだ。」というモチベーションがあると、開口一番の施設長。入居時の重要事項説明で、どこまで出来るかを説明する。看取り後は、カンファレンスを通じて、次に活かしている。年1回の研修では、各ユニットでマニュアルを作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段より緊急時対応マニュアルに目を通し勉強会においてもデモンストレーションし身につけるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練や災害時の避難方法などの訓練を勉強会でやっている。また、ユニット内に避難経路やマニュアルを置いてあり、いつでも確認できるようにしている。	年2回火災と台風、水害訓練を昼夜想定で利用者で行った。玄関に避難経路の掲示をし、緊急連絡網は携帯電話を活用。消防署とは、消防計画のやり取りの際に連絡を取っている。備蓄は、隣接する母体法人が3日分程度管理している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者を敬いながらもあまり堅苦しくならないような一人ひとりに合った声かけ、特に排泄誘導時、入浴時への配慮を怠らないようにしている。	呼称は苗字に「さん」付けをし、家族の要望で呼んでほしい呼称がある場合は、臨機応変に対応する。入室時にはノックし、肌を露わにする時には、タオルをかけたり、素早く更衣をするように取り組む。入れ歯を嵌める時には、洗面所に誘導し、個別に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のそれぞれの場面において本人の思い等を聞くようにしている。無理な時は選択的に選んでもらう時もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活が基本となっているが本人の部屋でゆっくりテレビをみて過ごしたり、趣味活動ができるように支援したりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が選んで購入している服が基本となっている。選択できる人には、入浴時や更衣時には自身で衣類を選んでいただいたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	見た目でも楽しめるよう盛り付けには気を配っている。また、食器拭きをしてもらったりしている。	朝は施設内で作り、昼と夜はケイタリングを継続。法人内の管理栄養士が、試食しに遊びに来て、皆とおしゃべりして帰る。利用者の誕生日や行事食があり、共に作る喜びを感じて頂ける様に、お好み焼きや焼きそばを一緒に作ったりして、美味しく食べられる喜びを共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った食事の提供が行えるように努めている。好みや摂取量を把握し状態に応じた提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回口腔ケアを行っている。なるべく本人にしてみらえるように促し、できないところは介助させてもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら一人ひとりの排泄間隔を把握しさりげなく声掛け誘導している。	排泄チェック表を活かして、こまめに言葉を掛け、日中は出来るだけトイレ誘導をしている。家族へのコスト意識をして、衛生材料は快適且つ効果的に使っている。失敗されても静かに言葉をかけて見えない場所まで誘導する。ポータブルトイレは、夜間のみどうしても必要な方へのみ使用する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給と下剤の導入で個々に応じた排泄管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	業務上、入浴日は予め決めているが状況に応じ入浴日を変更し入浴を楽しめるように支援している。また、リフト浴を導入しており、浴槽を自身でまたぐことができない方でも浴槽に浸かれるようになっている。コミュニケーションをとりながら行うことで楽しめる時間が取れるようにしている。	入浴は週2回。頻度を増やす事も可。リフト浴は職員にも好評なので、利用者共に安全安楽を得ている。入居してしばらくは、馴染みにくく嫌がる方もおられるが、『共同生活介護』の場として、共に暮らして行く事で、徐々に気持ちがほだされ、自然に入浴出来る様になるとの事。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせ休む時間を設けている。また、眠気など本人の状態に応じ午後からも休んでもらったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の追加や変更があった場合は看護師から内容や効能などの説明を受けている。病状の変化などは申し送りや申し送りノートを活用し職員間で情報を共有し意識の統一を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の体操やDVD鑑賞、作業提供などへ参加してもらい1人1人が充実した生活が送れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出支援は行えていないが気候のいい時には庭に散歩へでたり、日光浴を行ったりしている。	田園の中の立地を活かして、気軽に散歩が出来るので、利用者は地域の方との交流やふれあいがある。広い敷地には特養・老健・デイサービス等の関連施設があるので、一歩外へ出れば、他の事業所の利用者や職員や出入り業者と、触れ合う事も日常となっている。近所に名所もあるので、通院時のドライブに立ち寄ったりもする。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失を防ぐ為、基本的には預かりとしている。本人が持っている事で安心する場合はある一定の額を持っていただいている場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望があれば事務所の電話を使用してもらえるようにしているがあまり要望は聞かれていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招く恐れがある為、大幅にレイアウトを変更する事はないが壁面飾りや写真等を飾り季節感を出している。	評価が始まって直ぐにリビングではランチカフェタイムがあり、利用者は好みのドリンクをオーダーしていて、にこやかに会釈をして下さった。壁面には、四季折々の制作物が掲示されている中、七段飾りの模造紙が掲示されており、職員に尋ねると、ひな祭りを前に、皆で作ったお雛様を飾ろうとしているとの事だった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼ定位置で過ごす事が多いが、作業時やレク時は、トラブル防止もかねて席の配置をしたり一人で読書が出来るテーブルかソファ等でゆっくり過ごせるようにしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していた馴染みのものを持参され使用している方もおられる。ADLの低下や状態によっては家具等の配置替えをし快適に生活出来るように工夫している。	位牌と遺影がキッチンと置かれてあり、祈りを捧げられる穏やかな暮らしが流れている様だった。筆筒の上には、届けられたハガキが置かれてあり、一人の時間に、しみじみ見返しておられるとの事。嫌な臭いもなく、利用者の個性が活かされた、居心地の良さを感じる居室だった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすの方が使える洗面所、トイレの手すり、廊下の手すり、フットライト、トイレ(便所)への案内の貼紙等で使いやすく、わかりやすく工夫している。		